

地域ねこ計画を始める、5つのポイント。

捨てるな、増やすな、殺すな、逃がすな、苦しめるな!!
生まれたら、一生お世話をしてね!!

地域ねこ計画は、人と人のすてきなふれあいから生まれ、小さいのちにやさしいまちづくりです。お外のねこも、「ねこにできない5つのポイント」が行なわれそうなことについて、地域の人の助けを待っているのかも知れません。



1.【対話】ねこ好き、ねこ嫌い、ねこを怖い人や無関心な方々も、同じまちで一緒に暮らします。

「ねこが、何をするのでお困りなのですか?」「えさ場やトイレはどこなら良いのですか?」……。この2つが、ご近所関係をうまくする秘けつの決まり文句ともいわれます。

調査に基づく、苦情の約3割が「徘徊からくる、糞尿」で、同様に「その原因を防ぎ除くなら許される」もほぼ同数です。(※地域ねこ計画:ねこの繁殖力、は項目別途)

外のねこにえさをあげたら、片づけをしますが、ご近所との対話のきっかけ作りには、片づけをしている姿も注目されるようです。

地域ねこ計画を始めるときに、一番の重要なポイントは、「円滑なご近所付き合いのための対話」といえます。

2.【繁殖制限手術】不幸なねこをこれ以上増やさない目的の繁殖制限の方法は、獣医師による不妊や去勢手術です。お外暮らしのねこですから、オスとメスを触れさせない方法の出産制限ができません。(※地域ねこになるためのルール・ねこの飼い方3原則・獣医師と巡り会うなどは、項目別途)

3.【地域行政の後押し】地域ねこ計画の繁殖制限手術が、外のねこにすすんでいることなどを、地域を所管する保健所などの「愛護動物主務所管」に報告します。

活動の事実結果や、今後の計画と経過を、数字で示しながら手短かに整理します。

(※地域行政の主務所管を知る。・地域行政へのご報告などは、項目別途)

4.【遺棄・衰弱虐待・殺傷禁止】愛護動物所管や、地元警察、アニマルレスキューを

行う場合の消防ほか、可能でしたら教育、国土、建設、緑地、公園、厚生福祉などの所管とも情報交換を適切に行います。

捨てるねこ違反や、不適切な飼育場からの逸走や放出、殺され、傷つけられる犯罪、余剰動物発生などの抑止対策をします。地域の愛護動物所管と情報交換の糸口ができているときは、他のセクションとの連携もとりやすくなります。動物介在療法/アニマルセラピーの役割を果たし終えたという理由から、余剰ねこと呼ばれるという問題は、地域密着の福祉や民生部門とも関連します。重大犯罪のきざしが、小動物の殺傷犯人にうかがえることも知られています。(※可罰的違法行為の対応ってなに?・情報交換などは、項目別途)

5.【飼い主責務の普及啓発】ペットのねこの飼い主さんに、正しい飼い方などを知ってもらえることが欠かせません。(※地域へのチラシ例・ねこの飼い方などは、項目別途)

人と人の、すてきにふれあうきっかけが見つかり、ご近所でお声を掛け合いながら、不妊去勢手術もすすみ始めたら、町内会や管理組合などとお話し合いを始めます。

例えば、町内会などのほか、一般市民による末端の組織が、公益性のある事業を計画する際に、地域を所管する行政も後押しをしやすくなります。(※都内の地域ねこ計画協働プラン事例は、項目別途)

ご近所のお仲間さんづくりでは、ねこ嫌いといっていたどなたかも理解者になった後に、順調にすすんだ事例も多いです。ねこが殺され、傷つけられるのは誰でも嫌います。ねこもいるまちづくりを理解する方々は、想像するよりも多いもの。ご意見をうかがうアンケートや、手づくりチラシなどでお知らせすると理解を深められます。そのチラシやアンケート結果は、お役所への報告書にも添えて提出されます。警察は、お役所への報告書に記載されている区域のパトロールを行いやすくなります。(※参考例:地域行政の普及啓発ツール/看板は、項目別途)

それでは、いつ、どなたが、どこで着手すればいいのでしょうか?「地域ねこ計画を始めるのは、どなた?」は、次の項目です。

